

## 6月23日(水)午後、神奈川労働局労働基準部長が「みなとみらい地区」の大規模建設工事現場をパトロールいたしました。

神奈川労働局労働基準部安全課・健康課

第94回全国安全週間を令和3年7月に控えた6月23日午後、開発が進められている横浜市内みなとみらい地区の大規模ビル建設工事現場を神奈川労働局労働基準部長がパトロールいたしました。

### 第94回全国安全週間スローガン

持続可能な安全管理 未来へつなぐ安全職場

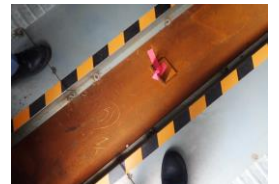


この建設現場では鉄骨造、地上28階の複合商業施設を建築していて、20階から上はホテルになるそうです。令和2年4月に着工し、これまでに死傷労働災害は発生していないということでした。

このパトロールでは、建設業において高リスクである墜落災害防止措置と、最も発生数の多い転倒災害防止のための安全通路の維持について重点的に点検いたしました。具体的には高所の手すり、親綱を設置してのフルハーネス型安全帯の使用及びつまずきのない安全な通路となっていることを確認いたしました。また、この季節は、高温多湿であり熱中症を発症しやすいことから、水分及び電解質の補給や休憩所の冷房完備などの予防対策及び発症時の速やかな救急行為の取り決めについて確認いたしました。さらに「新型コロナ」対策についても、現場入場時の体温と体調のチェックや、休憩所などの3密防止対策が積極的に講じられていることを確認いたしました。



この工事現場では、定置カメラとモニターを利用した現場監視システムを構築しており、事務所にいても作業現場の状況を逐次、把握することが可能でした。危険の「見える化」も積極的に取り入れられている現場でした。この工事現場では、建設業労働災害防止協会神奈川支部が力を入れている「セーフティリボン運動」にも積極的に参加いただいております。現場の各場所に危険の「見える化」のためのピンクリボンが見られました(写真は床上の突起物)。



パトロール後に労働基準部長は、現場の安全衛生管理御担当に「IT技術の積極導入や熱中症、新型コロナ対策を効果的に実施されておられる等、労働災害防止のために国内でも最先端の安全衛生管理を行っていると感じました。日々、関係業者30社、250人の作業員が就労し、周辺は通勤通学や観光娯楽目的の通行者も多い、となると、労働災害や公衆災害の防止対策も大変なご苦勞をされていることは想像に難くありません。最近、神奈川県内の建設工事現場で死亡労働災害が複数、発生していますが、この現場では死傷災害は発生していないということで、たいへん立派なことです。今後も労働災害防止に努められるようお願いいたします。」と講評を述べ、現場を後にいたしました。



熱中症対策の「見える化」です